

(2) 授業の中で大切にしていること

① 聴く

「話す」より「聴く」「受け止める」

相手の話を聴く姿勢を身に付けさせましょう。私語をするのは、相手意識の欠如です。

- ・ まず教師がしっかり聴く。
- ・ 教師の発言や説明はできるだけ少なくする。喋りすぎない。
- ・ 教師はできるだけテンションを下げて、声は教室の後ろにようやく届くくらいの大きさにする。
- ・ 学び合いに必要なのは、ルールではなく習慣。どの教師も、どの教科も、どの授業も、授業の中に学び合う場面を取り入れる。
- ・ 1時間の授業の中に、必ずペアやGでの活動を取り入れる。
- ・ 教師のしかけ、ちょっとした言葉で生徒の意識を変化させる。

例) ・ G活動に入る前に極端に静かにしてみる。

・ コの字の真ん中に入って小声で話してみる。

・ 一人ひとりと目が合うまで生徒の目を見る。

- ・ コの字、Gでの机を隣とくっつける。学習用品は机の端に置く。

そのために、荷物は必ずロッカーに整理し、机の横に大きなものを吊したり、床に荷物を置いたりしない。その重要性を教師が理解し、生徒に伝えたり、一緒に考えたりする。机をくっつけることも、荷物を整理することも、毎朝、毎時間、教師みんなが声をかける。

- ・ Gのときは、学習用品等を机の端に置き、中心を学びの場として広く空ける。

② つなぐ

生徒⇔生徒 教材⇔生徒 既習内容⇔本時の学習内容 授業・教室⇔社会

- ・ ペア活動で、隣に伝える。確認する。説明し合う。伝え合う。前時の復習や準備物がそろっているか等、些細なことからペアをつなげる。
- ・ 授業の中で頻繁に生徒同士をつなげる。
- ・ 個への指導ではなく、生徒同士をつなぐ声かけ、周りに「教えて」「分からない」が言えるような声かけをする。

「〇〇さんはどう思う?」「〇〇さんの意見は伝わっている?」

「わからないときは周りの人に聞いてごらん。」「〇〇さんに聞いてごらん。」

「わかりにくいときは周りの人と相談してね。」

「隣の人に聞こうね。見せてもらってね。」「隣の人と確認しようね。」

「質問されたら最後まで教えてあげよう。」「聞かれてわからないときは一緒に考えよう。」

「周りの人みんながわからない?」「そのところわかっている人は周りにいないかな?」

- ・ 教材や資料等とつなげる。

「(資料や実験結果の) どこからそう思ったの?」

③ もどす

流れをテキストや授業の本筋にもどす

学びの行き詰まりを解消するために、教師が誘導していくのではなく、元に戻す対応をしましょう。

- ・ 行き詰まっているGは、その前段階にもどして考えの整理や自分たちのエラーに気付かせる。
- ・ 課題からそれているGは軌道修正する。
- ・ 授業のふり返りの場面で、自分の言葉で表現させる。

↓

何がわかったのか、何が疑問なのか、表現することで整理させる。

④ ケアする

周囲の友だちと関われない生徒、学びに参加できていない生徒、つまづいている生徒、停滞しているGに寄り添い、支援しましょう。

- ・ 生徒のようすをよく観察する。

例) 表情、仕草、周囲との溝 (机が離れている、人との間に筆箱等で壁をつくる)

- ・ 机に伏せたり、寝たりしている生徒には、すぐに声かけをする。(1分以内)
- ・ 活動が停滞しているGには、すかさずケアに入る。「今どうなってる?」「どんなことに困ってるの?」
- ・ 考えに行き詰まったら、Gの中に返す。「ちょっと〇〇さんの考えを聞いてみようよ。」
- ・ 学びが成立していないGにのみ、そっとそばに行って声をかけ、支援する。生徒の力で進んでいるGは見守る。
- ・ 配慮が必要な生徒についてはGのメンバーを考慮する。

⑤ 質の高い学習課題

教科の本質に迫る課題 (共有課題) と深く探究する課題 (ジャンプ課題)

ジャンプ課題に取り組む中で、共有課題がわかるような課題の工夫をしましょう。

- ・ 一緒になって探究できる、考えたくなる課題を設定する。「なぜ?」「どうして?」「どういうこと?」
- ・ Gで協力して取り組むことで深まる課題を取り入れる。
- ・ ゴールできるのは、数人でよい。易しい課題では深まらない。話しやすい課題は盛り上がるだけ。
- ・ 静かに探究する課題。Gになっているけど、ときどき一人で考える。発見したり、困ったりしたらGにもどる。糸口を見つけることができれば、黙って一人で取り組む。

「話し合い」は、すでにわかったことについての意見交流であって、そこに学びの深まりはない。「教え合い」は、わかっている人がわかっている人に教える。そうではなく、自ら進んで学び合い、「ねえ、教えて。」が言える関係があってこそ学びが深まる。自分から「ねえ、教えて。」が言える生徒に育てたい。

G活動は、活発であったり盛り上がったりする必要はない。しっとり静かに探究してこそ学びが深まる。

本年中 協同学習の約束

- 1 私語はしません。
友達の意見や先生の話をよく聴きましょう。
- 2 机をびったりくっつけます。
ペアやグループで活動しやすい環境にしましょう。
- 3 友達が「教えて」と言ったら教えます。
自分から「教えて」と言うようにしましょう。
- 4 「教えて」と言われたら、最後まで教えます。
ゆっくりじっくり相手に寄り添いましょう。
- 5 分からないことをそのままにしません。
途中で投げ出さず、根気よく取り組みましょう。

(3) 教員研修

全教員が3つのGにわかれて研究を推進する。

① 授業改善G

具体的なジャンプ課題を示したり、それぞれの教員が実践したジャンプ課題を集約・蓄積したりして、協同学習の推進をはかる。また、授業研究週間や校内公開研究会の運営や授業参観の視点等、効果的なあり方を考える。

② なかまづくりG

なかまに寄り添い、なかまの思いを受け止め、誰とでも関わり合える雰囲気のある教室をつくるために、人権・同和教育、道徳教育、特別活動のそれぞれの部会で取組を検討、提案する。各学年の実態を考慮したり、学校行事と関連付けたりした適切な内容を提案する。また、3年間のつながりをもたせた内容になるように配慮する。

③ 生徒理解G

- 全国学力・学習状況調査
- 県学習状況調査
- 授業に関するアンケート (教員・生徒)

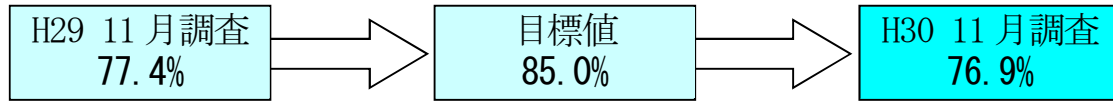
これらの結果を前年度等と比較・分析し、生徒の実態把握につなげる。

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (生徒質問紙) 分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか。

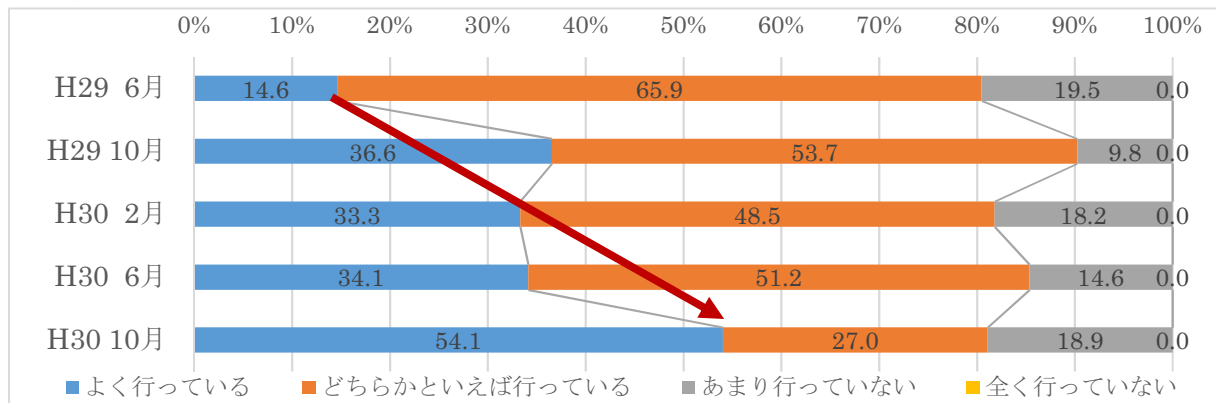
指標 「①取り組んでいる+②どちらかといえば取り組んでいる」



昨年度より割合がわずかに減少しているが、全体として高い割合を概ね維持しているととらえている。

指標の達成に向けた実践

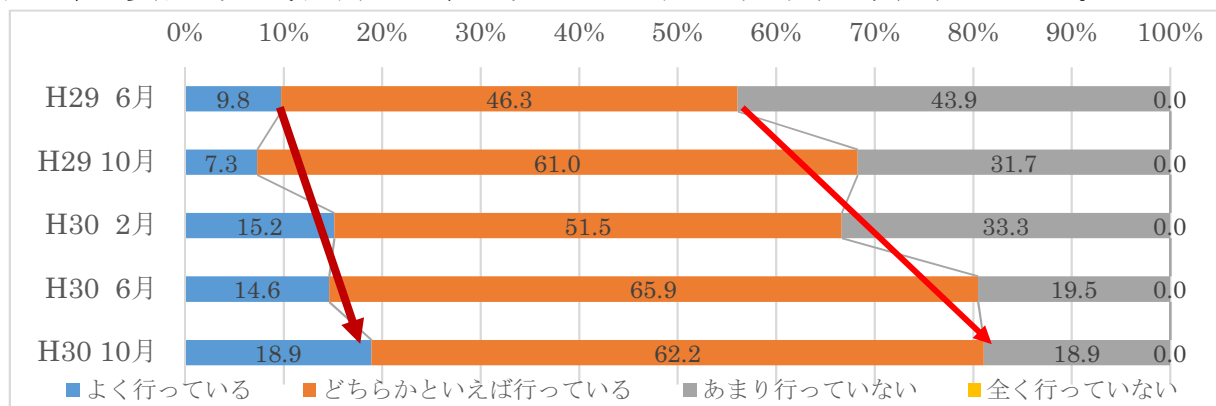
(1) 生徒が活動する時間を十分に確保している。



教師の発言や説明はできるだけすくなくなるように言葉を精選し、できるだけ生徒がGで活動する時間を確保することで、結論を急ぐのではなく、落ち着いてじっくり考える姿勢が身に付いてきたのではないかと思います。

特に、「よく行っている」と回答している教員の割合が増加している。高い意識で授業に臨んでいる教員が着実に増加しているのだと考えられる。

(2) 生徒の多様な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発言や助言等をしている。

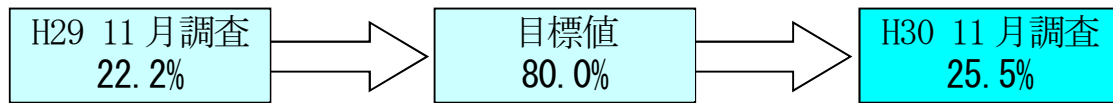


生徒同士をつないだり、授業の本筋に戻したりするための言葉について、具体例をできるだけたくさん全教員に示し、共通理解を図っている。

2 (授業に関するアンケート)

自分の考えを自分のことばで書いたり話したりできていますか。

指標 「①できている」



指標の達成に向けた実践

(1) 振り返りの時間の設定

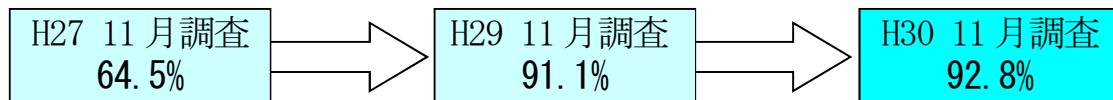
授業の終末に、1時間の授業の中で学んだことについて、以下の内容の中から自分の言葉で表現する時間を設定するようにしている。

- ① 気付いたこと
- ② 分かったこと
- ③ 大事だと思ったこと
- ④ 自分が考えることの助けになった友達の言葉

回数を重ねることで、日常感じていた疑問と関連付けて表現できる生徒も増えてきた。また、教師が書いた板書を書き写すだけのまとめでは見えてこない個々の学びの深まりを、振り返りの内容から把握できるので、次の授業へつなげることにも役立っている。

3 (生徒質問紙) 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動を行っていると思いますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」



指標の達成に向けた実践

(1) 木太中 協同学習 教師の約束 (図A)

年度当初に、新しく赴任してきた教員も同じ歩調で授業改善に取り組めるように、現職教育での取組について共通理解をする場をもつようにしている。それをもとに、1時間ごとの授業に取り組むにあたり、全員が毎時間必ず意識する視点を「木太中 協同学習の約束」として示した。

これを、職員室に掲示したり、個人で携帯したりして自分の授業を振り返るように努めている。

特に、「3 生徒同士をつなぐ時間の設定」に示しているように、どの教科、どの授業でも必ずペアやGで関わり、学び合う時間を設定するようにしている。

木太中 協同学習 教師の約束

- 1 学習環境の整備
 - ・机はびっぴりくっつける。
 - ・カバンはロッカーに
 - ・学習用品は机の端に
- 2 ジャンプ課題の設定
 - ・ どの單元にも
- 3 生徒同士をつなぐ時間の設定
 - ・ 毎時間
 - ・ ペアで確認、説明、伝え合う。
 - ・ グループで発表、発表。
- 4 適切な声かけ・援助
 - ・ 個別に学習支援をするだけではない。
 - ・ 活動が停滞していたらケアする。
- 5 振り返りの時間をとる。
 - ・ 自分の言葉で表現させる。
 - ・ 気付いたこと、わかったこと、できるようになったことなど。

図A

◆特徴的な取組

G別教員研修

3つのGが相互に連携をもちながら、研究主題に迫っていけるように、G別に協議した内容について、各学年団に広げていっている。

(1) 授業改善G

① 授業研究週間における授業参観の視点

- 第1回（6月） 「つなぐ」
- 第2回（10月） 「聴き合う関係づくり」
- 第3回（1月） 「質の高い学習課題」



生徒同士の関わり合い

② 木太中 協同学習 教師の約束

先に示した「木太中 協同学習 教師の約束」の素案づくり

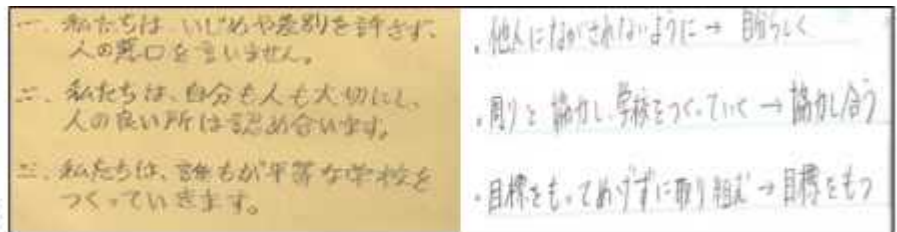
③ 生徒の現状と今後の取組についての意見交換

各学年団や学級の生徒の様子について情報交換をし、それぞれの実態に応じて、どんな手立てが必要かを話し合い、その内容について各学年団に広める。

(2) なかまづくりG

① 人権宣言の作成

生徒会役員を中心に、「協同学習」という視点を踏まえて各自が考えた案(図B)を提案、協議した。



図B

② 道徳の授業公開

授業研究週間に、なかまづくりGの代表が、道徳の授業を公開した。

③ 教育相談担当からピア・サポート活動の提案

展開例やワークシート(図C)を準備して職員会議で提案し、各学級で実施した。



図C

生徒の振り返り

(3) 生徒理解G

① 授業に関するアンケートの結果を集計し、各学年団の生徒の変容について分析した。

1年生…協同学習に慣れ、自然と学び合う雰囲気が出てきたのではないかと考えられる。

2年生…ペアやGの活動に消極的だった生徒が、少しずつ前向きに取り組めるようになってきた様子がうかがえる。

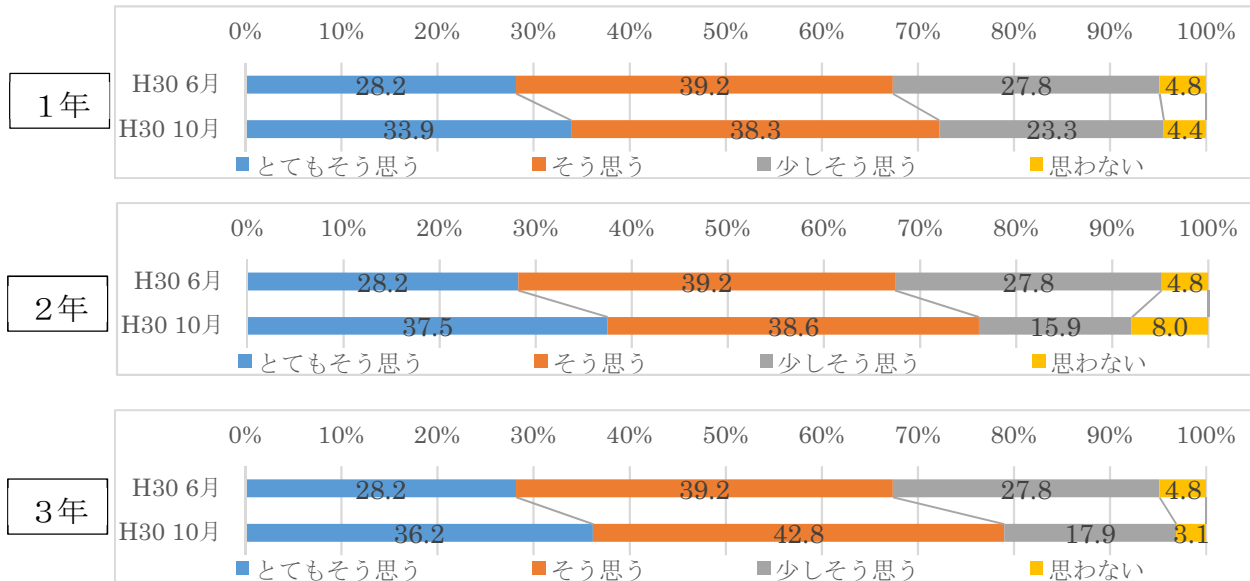
3年生…「学習の診断」の結果が返却された後のアンケートでは、学習に対して自信をなくし、自分の授業への取組について、否定的な思いが増加したのではないかとと思われる。

IV 研究の成果と課題

◆成果（達成状況）

(1) 生徒対象「授業に関するアンケート」

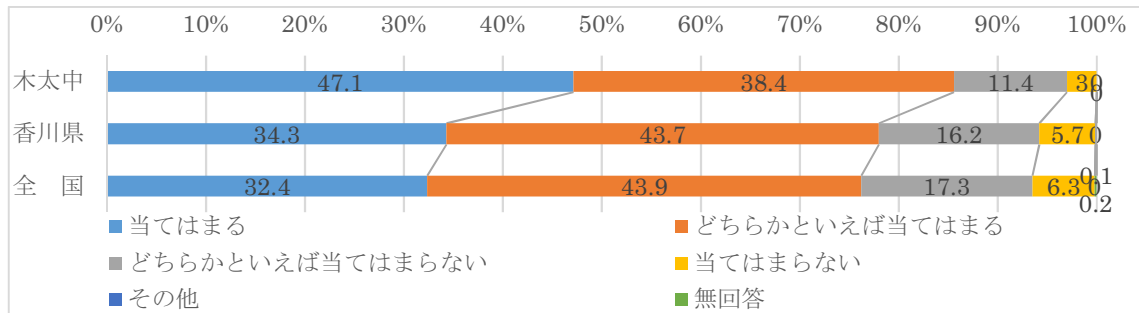
ペアやGの活動をすることで、授業内容の理解が深まりましたか？



どの学年の生徒も、友達と一緒に考えたり、意見を交流させたりすることで分かるようになったと実感している生徒が増加している。

(2) 全国学力・学習状況調査

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか？



肯定的な回答をしている生徒の割合が、全国や香川県の平均を大きく上回った。特に、「当てはまる」と強く肯定的に感じている生徒が全体の約半数である。本校では、現3年生の入学時の平成28年度より協同学習に取り組み始めた。継続した取組により、ペアで確認し合う活動やGでの探究活動での学びの深まりを実感している生徒が多いのではないかと考えられる。

なかまづくりGから提案された活動を通じて、学級の雰囲気が良くなり、なかま意識をもつことにもつながった。また、相手のことを考えながらコミュニケーションをとることの重要性に気付く生徒も見られた。このようなことから、授業の中でも、自然と「分からない。」や「教えて。」という言葉を投げかけ、周囲の生徒もそれに対して相手に分かるように伝えたり、説明したりしようという変容が見られる。自分が分からないことを伝えられる雰囲気があり、質問された側も、教えることが自分にとって良い効果があると感じ

られることで、よりG活動にも積極的にになり、理解を深めることができているのだと考えている。

また、生徒理解Gでアンケート等の調査結果について、なぜ生徒がそう感じているのか、日頃の生徒の様子や置かれている状況と照らし合わせながら分析することで、より生徒の実態に応じた授業にするにはどうすればよいか、多くの教員が考えるきっかけになった。

(3) 共有課題とジャンプ課題

どのような課題を提示したのか、また、実践してみて良かった点や改善点等について、全教員の実践内容を集約することで、ジャンプ課題に関する情報を蓄積した。各教科ごとの事例の一部に以下のようなものがある。

教科	学年	共有課題	ジャンプ課題
国語	3	絵画を鑑賞し、批評文を書こう	批評に使う言葉を吟味し、より良い文章にしよう
数学	2	一つの頂点から対角線を引くことで、多角形の内角の和を求めよう	共有課題以外の方法を考えて、多角形の内角の和を求めよう
社会	3	第一次世界大戦後、国際社会はどのようなようになっていったのだろうか	後に国際連盟が崩壊し、第二次世界大戦となった。では、どのような組織であれば、世界平和を守り続けることができるのだろうか
英語	2	物語のあらすじをつかもう	リテリングしよう
理科	1	水圧とはどのようなものだろうか	石釣船で大きな石を運ぶにはどうすればよいだろう
音楽	2	楽器の音色や特徴を感じ取ろう	雅楽の特徴を理解して、その魅力を自分の言葉で伝えよう
美術	3	1点透視図法を使って立体的に表現しよう	テーマを設定し、それに合ったデザインや配色を考え、部屋のデザインを制作しよう
保健体育	1	フォーム、呼吸法を意識して、ペースを守って走ろう	前回の心拍数から、持久力が高まるペースを見つけよう
技術・家庭	1	磯野家10年後、住まいについての問題点を考えよう	各自が考えた問題点を解決するリフォームプランを作成しよう

◆課題

教員の協同学習に対する意識が低下しているのではないかと危惧している。ただなんとなくG活動を取り入れたり、座席配置がコの字になっていることで、一斉講義型授業をしても協同学習をしているように勘違いをしていたりという面も感じられる。さらには、提示した課題の難易度が低すぎたり、生徒が何を考えればよいのか分からないものであったりして、生徒の実態に合っていないことも、教員の姿勢が影響しているのではないかと思う。

これまでの取組の中で、生徒同士の関係性は随分良くなっており、温かい雰囲気の中で授業を進められているが、課題に向き合えず、Gの他の友だちの意見に頼りっぱなしで、なかなか自分で考えられない生徒も見られる。自分の考えに自信がもてずにワークシートの記述を筆箱や手で隠したり、思っていることを言い出せなかったりする生徒もいる。

数値でははかれない生徒の変容を感じる場面も多くあるので、教員が高い意識をもって積極的に授業改善に取り組むことが求められると思う。